



けやきだい



三つの“宝”

を大きく育てます

- ①心身のたくましさ
- ②未来を拓く知恵
- ③ふるさと所沢を愛する心

教師一人一人が力をつけ、学校力を高め、子供の生き抜く力を育む

令和6年度の折り返しで大切にしたいこと

2学期は、多くの学校行事があり、子供たちは様々な経験を通して、心身ともに大きく成長します。行事の中には集団として取り組むものも多く、他者と協働することで、協調性や思いやり等の大切さ、課題解決の喜び等を感じることが出来ます。一方で、意見の違いや何気ない一言によって、心を痛めている子供の様子を目にすることも多々あります。令和6年度の折り返しの時期、改めて子供たちの様子に気を配り、変化を把握し、寄り添い支えていきましょう。

今回の所報では、全国学力・学習状況調査結果報告、ICT機器の活用の充実や研修会の報告等を掲載しております。年度の折り返し時期に際し、各学校の教育活動の質の向上に向けて活かしてください。

全国学力・学習状況調査 令和6年4月18日(木)
実施教科 国語 算数・数学

	小学6年生		中学3年生	
	国語	算数	国語	数学
所沢市全体の平均正答率	68	63	60	54

【学習指導要領の内容等】

- <小学校国語> ○「書くこと」が、全国及び県平均よりも高い。
△「我が国の言語文化に関する事項」が、全国及び県平均より低い。
- <小学校算数> ○「データの活用」が、全国及び県平均よりも高い。
△「図形」が、全国及び県平均よりも低い。
- <中学校国語> ○すべての項目において、全国及び県平均よりも高い。
△「情報の活用に関する事項」が、全国平均よりも高いが差が小さい。
- <中学校数学> ○すべての項目において、全国平均よりも高い。
△「関数」が、全国平均よりも高いが差が小さい。

【児童生徒質問紙】

- <教師と児童生徒の関わりに関する質問>
 - 結果 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか?」という質問に、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均より1ポイント以上上回っている。
 - ◇考察 本市の「心のエネルギープロジェクト」が浸透してきていると考えられる。
- <家庭学習・読書に関する質問>
 - 結果 小・中学校ともに全国平均と比べ、良い結果になっているが、全体的に8割を下回っている。
 - ◇考察 計画的な学習や読書習慣を進める必要がある。
- <家庭・地域・社会との関わりに関する質問>
 - 結果 全国平均を下回っているものの、昨年度の割合よりも大きく上昇している。
 - ◇考察 地域の課題解決を題材とした学習や、地域での体験活動に取り組み、学校・家庭・地域の連携を推進していく必要がある。

所沢市 HP へ

<教科>に関する質問

- 結果 どの教科においても、「大切だと思う」という回答が高い割合になっているのに比べ、「好き」の割合が低い傾向がある。
- ◇考察 各教科の学習を「好き」になるよう「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める必要がある。



情報活用能力の基礎 “タイピング”



コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作は、学習の基盤として必要となります。これは、小学校学習指導要領解説総則編に明記されており、計画的に身につけさせることが求められています。ここでは、子供たちのタイピング技能の向上に力を入れている市内小・中学校から、取組の様子をうかがいました。

(1) 各学校の主な取組

習熟する時間の確保！

週1回、朝自習の時間、子供たちが継続してタイピングアプリに取り組んでいます。

力を試す大会の実施！

学期に1～2回、全校の子供たちが参加する大会を設け、タイピング技能を試す機会を確保しています。

表彰でやる気アップ！

タイピング技能で優れた成績を収めた子供たちを朝会で表彰するなどして、子供たちのやる気を引き出しています。

(2) 取組による効果

考えたり、交流したりする時間の確保

「学習のまとめ」や「授業の振り返り」を素早く入力できるようになり、課題についてじっくり考えたり、子供たちが交流したりする時間を十分に確保できました。

夢中になって黙々と一人で取り組む経験

朝自習の時間等決まった時間に、夢中になって黙々と一人で取り組む経験を積むことで、集中力を高める効果があると感じます。

子供たちが活躍する場の拡大

子供たちの活躍できる場を広げることができました。芸術やスポーツと同じように、他者に認められ、自己肯定感を高めることに繋がっています。

「学校における ICT 機器の活用と効果に関する調査」から



6月17日～28日に実施した「ICT 機器の活用と効果に関する調査」の結果から、ICT 機器を活用した授業が「楽しい」と感じる児童生徒が増加していることが分かりました。今後は、子供たちの興味・関心を高めるだけでなく、学習のねらいに即して活用するような工夫が大切です。学習の場面や目的に合わせて、黒板とモニター、ノートと Chromebook を授業で効果的に活用できるように、教育センターとしても各学校を引き続き支援して参ります。

9月から ICT 支援訪問で各学校を訪問した際に気付いたことを以下の通りまとめましたので、確認をお願いします。

【Chromebook をよりよく活用するために】

<input type="checkbox"/>	日頃から、子供たちに対して Chromebook を大切に扱うように指導している
<input type="checkbox"/>	休み時間、Chromebook の利用についてルールを定め、見届けている
<input type="checkbox"/>	ICT 機器を扱う授業でも、黒板やホワイトボード等に、本時のめあてや見通し、まとめを示している
<input type="checkbox"/>	授業で ICT 機器を使う際には、どんな目的で、どのくらいの時間使用するか計画を立てている

令和7年度 教育相談室ポスター 原画決定

教育相談室では、相談室の活動について広くお知らせするために、毎年、市内中学校に原画を募集し、ポスターを作成しています。

今年度は、中央中学校・北野中学校・三ヶ島中学校の3校に依頼し、計17点の応募がありました。ありがとうございました。

厳正なる選考の結果、下記の作品が最優秀賞に選ばれました。最優秀賞の作品は令和7年度の相談室のポスターとして、1年間、市内の小・中学校や公共施設に掲示します。また、優秀賞、特別賞の作品と合わせて、教育センターにも掲示します。



最優秀賞	北野中学校	稲泉 葵	さん
優秀賞	北野中学校	中西 彩乃	さん
優秀賞	中央中学校	向埜 彩々	さん
特別賞	三ヶ島中学校	小椋 結芽	さん

最優秀賞 稲泉 葵さんの作品

特別支援教育を担う教員養成研修会
指導者 元 埼玉大学 教授 櫻井康博先生

特別支援教育から学ぶ

～特別支援教育の魅力とともに 通常学級で学ぶ子どもの指導のために～

元埼玉大学教授 櫻井 康博 先生より、特別支援教育についての基礎的な知識・スキルを中心にご講義いただきました。特別支援教育に関するデータをもとに児童・生徒の実情を把握したうえで、支援を必要とする子供たちへの具体的な対応を考える等、多くの学びがありました。櫻井先生の豊富な御経験から、教師・子供たちそれぞれの立場からの考え方について御指導をいただきました。受講者とやりとりをしながら、終始温かい雰囲気での研修することができました。



【受講者の感想から】

- ・子供との距離感や言葉選び、保護者とのかかわりなど、特別支援教育、また人間の本質・気質の面から考える視点を教えていただいた。
- ・子供にとっての環境の大切さ、声かけひとつの大切さを学んだ。
- ・今自分が悩んでいることに直結したタイムリーな内容だった。校内で共有したい。
- ・素晴らしい講義なので、もっと多くの教員に聞いてほしい。

研究員合同研修会は、年3回行いますが、夏季休業中に2回目を実施しました。

内容① 実践研究員による中間発表



2年目の実践研究員

研究主題 「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」

ICT の活用について研究が進む中で見えてきたアナログの効果から、「デジタルとアナログ」を使い分ける必要性が見えてきました。

※1年目の実践研究員は、「令和の日本型教育」を研究主題とし、研究を進めています。

内容② 令和5年度専門研究員によるワークショップ



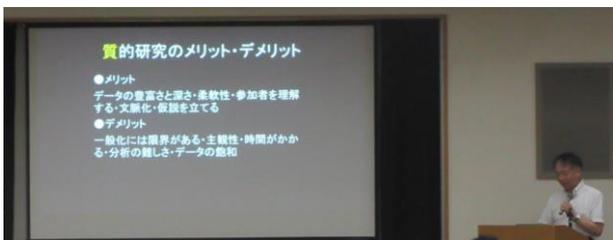
特別活動専門研究員が、学級会のグッズや思考ツールの紹介をしたり、「議題はどうあるべきか」について参会者に考えさせたりしました。参会者が児童生徒の立場となり、体験的な学びになりました。

外国語活動・外国語科専門研究員は、授業の題材への興味・関心を高める工夫について参会者と協議をしました。

<感想より>

- ・各実践研究員の報告では、ICT の利活用が挙げられた。特に「話し合い活動」「鑑賞」の場面での活用の仕方を学んだ。平素の授業の中で学んだことを生かしていく。
- ・ワークショップがあり、より実践的な指導を学ぶことができた。特に、特別活動では実際に役立つグッズや、まとめ方などについて学ぶことができた。年次研修等でも特別活動の勉強をしたので、合わせて実践していきたい。

内容③ 指導者による講演



指導者 東京学芸大学 教授 西村 徳行 先生

演 題 「研究は何のために？」
～研究成果を授業改善につなげる～

<感想より>

- ・研究の種類（量的研究・質的研究）を理解し、バランスよく研究したうえで、教科としての特性を意識して取り入れることが重要であると感じた。
- ・問いが子供たちの中から生まれることが大切だと分かった。
- ・「児童と教師が共に幸せになるために必要」という言葉が、一番印象に残った。

所沢市内の教職員の方は、[こちらから教育センターGoogle サイト](#)の閲覧が可能です

